＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

＜第７章＞

指導への反映

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

本調査研究では、評価と指導の一体化に向け「評価する能力ごとの到達目標と指導事例の系統表」の作成を行った。また、教科学習の時間、総合的な学習の時間など、研究校の取り組みの中から、効果的な指導事例の選定や効果的な指導案の検討を行い、系統表との紐づけを行うことで、指導の質向上へ生かす方法の検討を行った。

また、これまで開発した評価テストの問題の中から、生徒が興味関心をもった問題や、先生方が教科学習の単元の導入時や総合的な学習の時間で活用したいという問題を選定し、「授業用教材」「指導案」を作成、授業で活用していただいたうえで、効果的な指導手法の検討を行った。

本章では、その検討の過程で整理された系統表、それに紐づく研究校の指導事例、および開発された授業素材・指導案、そこから見えた指導への反映に関するヒントについて掲載する。

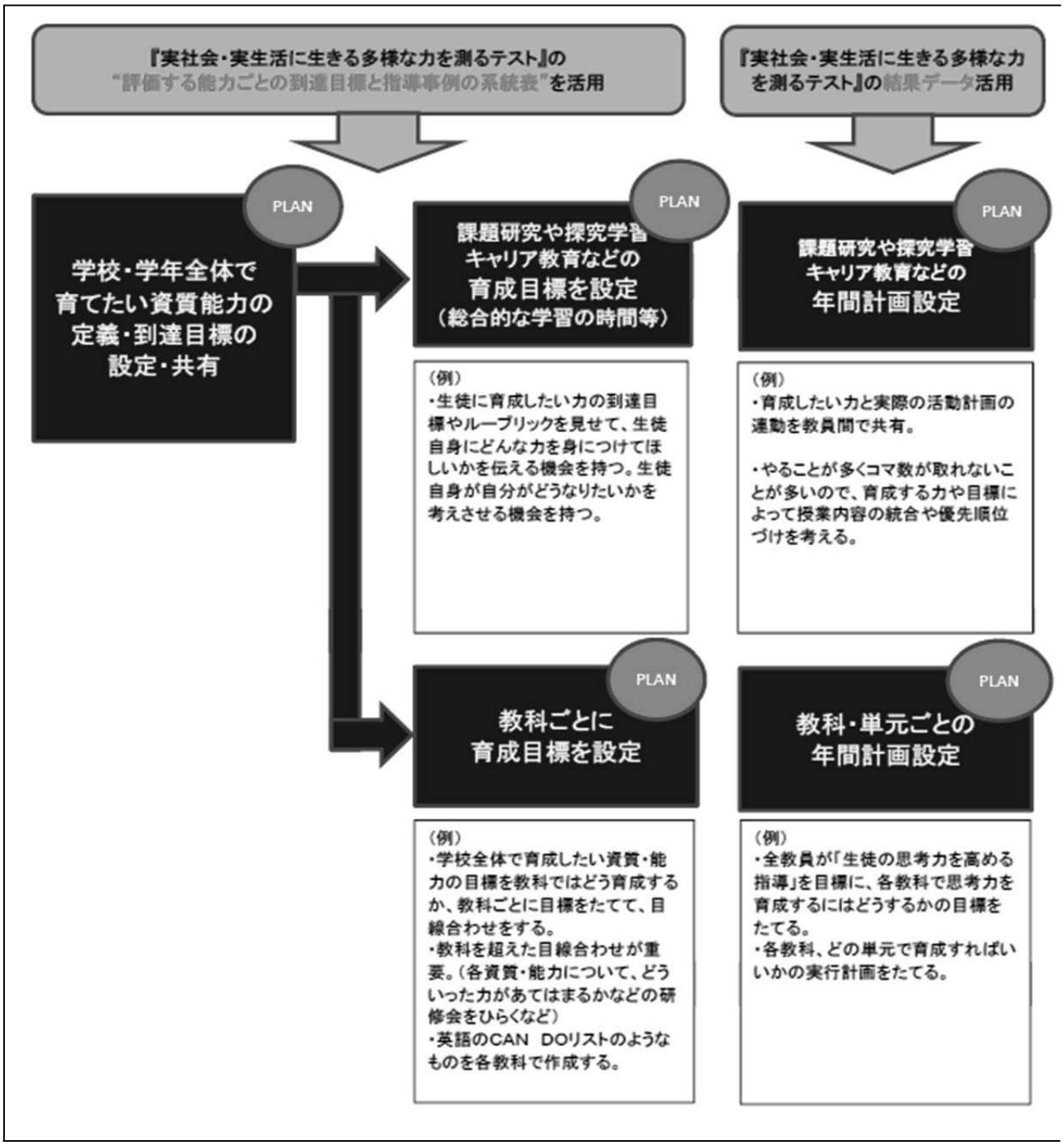
１．評価する能力ごとの到達目標と指導事例の系統表

（１）調査研究の活用サイクル

本調査研究を踏まえ、評価する能力ごとの到達目標とそれに紐づく指導事例とを系統表としてまとめた。系統表の作成に当たっては、研究校の先生方と以下のような議論がなされた。

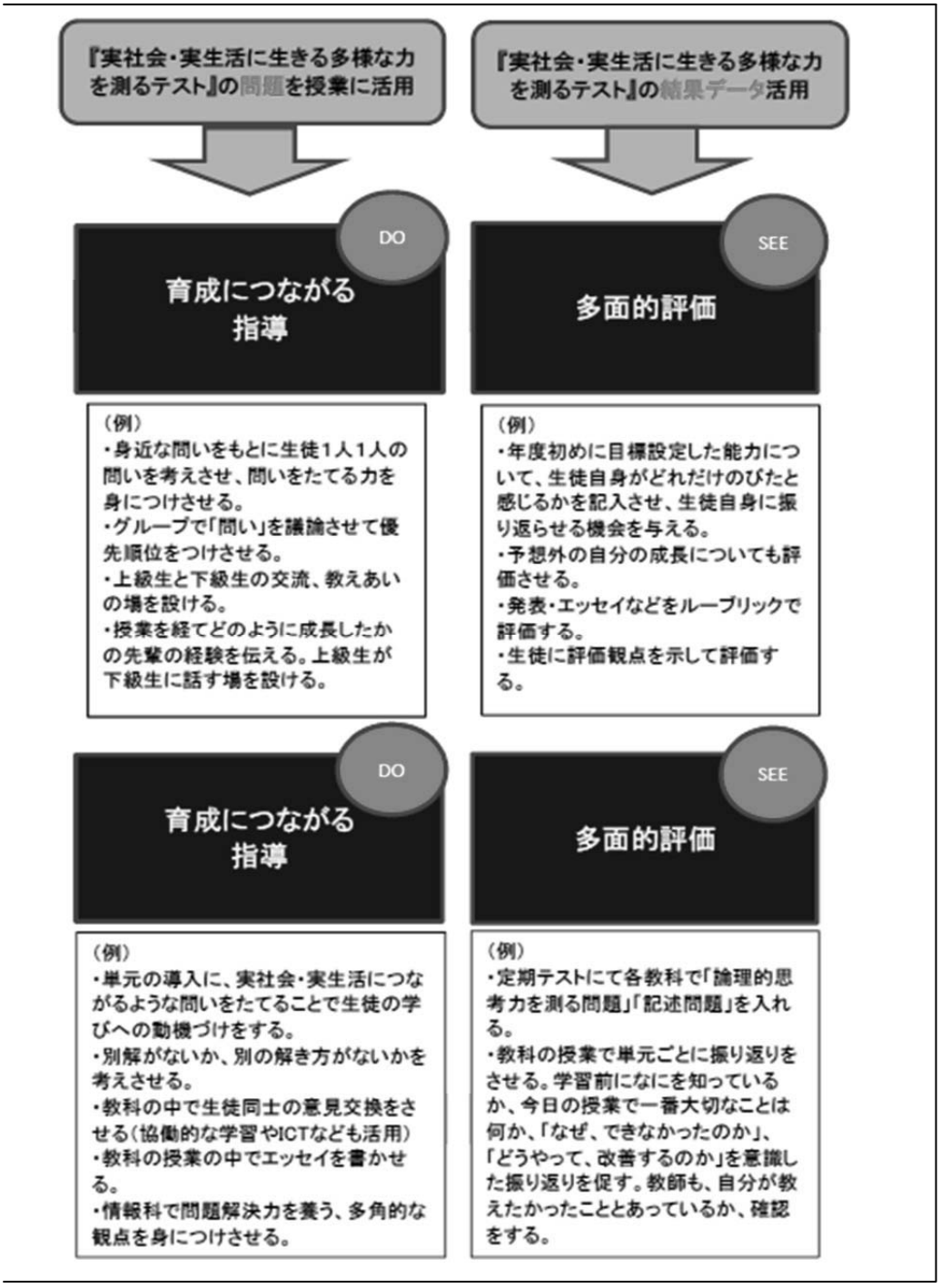
○（教科指導にどのように紐づけていくかという点について）ある事象テーマを軸にして各教科での学習にひもづけていく考え方がある（事象出発型）。同じテーマ・素材であっても教科によって観点が異なるので、それを授業や教材でつなげるように設計する。総合的な学習の時間を導入として、その後各教科につなげて学習に取り組むのがいいのではないか。

○（指導時間について）単発授業での実施ではなく、PDCA の流れを作っていけないか。学期毎に育成目標と評価の機会を設計して、各教科でも取り組むようにしたらよいのではないか。



○（授業進度への影響について）教科書の進度に影響しないよう、教科の履修状況・習得した学習内容に対応した教科別の教材を設計できるとよいのではないか（進度対応型）。
○（活動の評価について）活動の中にアウトプットをどのように組み込むかが大事。また、自己評価・客観評価などで、生徒自身がどのように力がついたのかを実感できる仕組みが必要。
（2015 年 10 月 12 日　評価手法検討会議議事録より）

以上の議論より、高校現場のご指導につながることを意識し、PDCA サイクル、能力ごとのつまずきポイントと対策、実際の指導事例を系統表としてまとめた。以下、それを示す。



（２）各能力ごとの到達目標

論理的思考力 批判的思考力	必要な情報を正しく取り出し、分析・解釈・評価し、多様な観点から論理的に考察する力
力の分類	情報の分析・解釈・評価

レベル	CanDo	つまづきポイント	指導のポイント	指導事例
a	・情報をその因果関係や背景なども踏まえた上で、的確かつ十分に分析・評価してから利用している。 ・複雑な文章や現象全体の構造を理解・把握できている。 ・物ごとを適切かつ十分に吟味し、その論理的な関係を理解することができている。 ・根拠と主張を結び付けることができている。		・前提となる情報から仮説を立て、論理的に推論する力を養う。 ・議論や論争の論点について、前提となる暗黙の了解や根拠等の背景を明らかにする力を養う。	**◆教科学習における指導事例** ・金沢錦丘高校・現代社会 「『現代の企業の本質的な役割と責任』についての考察」 →事例３ ・金沢錦丘高校・コミュニケーション英語Ⅰ 「バイオミメティックスに関して、積極的に自分の意見を相手に伝える」 →事例４ ・金沢錦丘高校・国語 評論において、筆者の論理展開を図示する ・柏陽高校・近現代と神奈川「冷戦から21世紀へ」 →事例５ ・柏陽高校・物理基礎「熱力学の法則を理解する」 →事例６ ・柏陽高校・近現代と神奈川「戦後日本経済史」 →事例７ ・林野高校・理科 事前に立てた仮説をもとに、実験実習を通して仮説の正誤を検証したり、グループが立てた仮説を別のグループが覆す活動をおこなうなどで考察力を養う ・和気閑谷高校・世界史B＋公民 「古代中国思想と皇帝政治」 →事例20 **◆教科学習以外での指導事例** ・岡山操山高校「ディベート」 →事例１ ・岡山操山高校「課題研究（グループ研究）」 →事例２ ・林野高校「むかし倉敷ふれあい祭り」→事例10 ・総合技術高校「産業探求その１」 →事例11 ・総合技術高校「産業探求その２」 →事例12 ・総合技術高校「産業探求その５」 →事例15 ・総合技術高校 「『インターンシップ』における事前学習」 →事例16 ・総合技術高校「研究ノート」 →事例19 ・和気閑谷高校「宿泊研修『源流の地閑谷で世界と未来を考える』」 →事例21
b	・情報の背景なども踏まえ、十分に分析・評価してから利用している。 ・複雑な構造の文章やグラフの読み取りがある程度できており、物ごとの論理的な関係を理解することができている。 ・段落ごとの関係性について、理解できている。 ・また、根拠を適切に整理することができている。	・情報の分析を試みようとするが、因果関係等、情報どうしをつなげる分析が不十分（情報どうしの関係性を判断する基準を持たない）。 ・複数の情報の中で優先順位をつけることができない。	・情報の重要度を意識して、自分の考察にとって必要な情報の選別ができるようにする。 ・複数の情報の中から、同一・相似・因果・相関などの関係を見出す力を養う。	
c	・情報をある程度分析・評価してから利用できている。 ・単純な構造の文章やグラフについては読み取ることができ、物ごとの論理的な関係をある程度理解できている。 ・１文と１文との関係性について、理解できている。	・複数の情報を収集し解釈しようとするが、その分析が不十分である（複数の情報を収集するだけで満足する）。 ・分析のための手法を知らない。	・情報を解釈する際に、不足している情報はないかという点も踏まえるようにする。 ・与えられた情報を比較・対照し、分析する力を養う。分析のためのスキルを身につける。 ・資料の中から目的にあった情報を抽出し、分析する力を養う。	
d	・情報に関して、その正誤に関わらず、いったんの説明を試みることができる。 ・物ごとのつながりや論理的な関係を、部分的・一面的に理解している。	・情報の分析や解釈が部分的であり偏りがある。 ・単一の情報＝自分の結論としてしまう。（情報源がgoogleなど単一、情報＝真と信じている）	・情報にはさまざまなとらえ方があることを知り、それを身に付けられるようにする。 ・意見と理由の関係を意識したり、自分の解釈と他の人の解釈を比較したりしてみる。 ・与えられた情報から規則、定義、条件等を読み取る力を養う。	

※「事例１」のように記載のあるものは、後ページに詳細を掲載

論理的思考力 批判的思考力	必要な情報を正しく取り出し、分析・解釈・評価し、多様な観点から論理的に考察する力

力の分類	論理的な表現力

レベル	CanDo	つまづきポイント	指導のポイント	指導事例
a	・適切かつ十分吟味した根拠と主張を結び付けて、説得力のある説明をしたり、自分の意見を明確に述べたりすることができる。 ・物ごとの論理的な関係を理解した上で、自分で的確に論理を組み立てながら、説明することができる。 ・異なる立場からの言動や考えなどから、その立場に立った見方で物事をとらえ、その考えを説明することができる。		・高校生活における様々な場面で、 より説得力のある説明をしたり、自分の意見を明確に述べたりする力を発揮できるようにしていく。	**◆教科学習における指導事例** ・金沢錦丘高校・現代社会 「『現代の企業の本質的な役割と責任』についての考察」 →事例３ ・金沢錦丘高校・コミュニケーション英語Ⅰ 「バイオミメティックスに関して、積極的に自分の意見を相手に伝える」 →事例４ ・金沢錦丘高校・国語 筆者の論理に倣って、文章を書く ・柏陽高校・近現代と神奈川「冷戦から21世紀へ」 →事例５ ・柏陽高校・物理基礎「熱力学の法則を理解する」 →事例６ ・柏陽高校・近現代と神奈川「戦後日本経済史」 →事例７ ・和気閑谷高校・世界史B＋公民 「古代中国思想と皇帝政治」 →事例20 **◆教科学習以外での指導事例** ・岡山操山高校「ディベート」 →事例１ ・岡山操山高校「課題研究（グループ研究）」 →事例２ ・林野高校「むかし倉敷ふれあい祭り」 →事例10 ・総合技術高校「産業探求その２」 →事例12 ・総合技術高校「産業探求その５」 →事例15 ・総合技術高校「インターンシップの実施」 →事例17 ・総合技術高校「『インターンシップ』における学習成果発表」 →事例18 ・総合技術高校「研究ノート」 →事例19 ・和気閑谷高校「宿泊研修『源流の地閑谷で世界と未来を考える』」 →事例21
b	・適切かつ整理された根拠をもとに自分の意見に一貫性を持たせることができる。 ・物ごとの論理的な関係を理解した上で、自分で論理を組み立てながら、説明することができる。	・結論に至った根拠を示すことはできるが、それをわかりやすく伝えようとする意識に乏しい。 ・相手の状況に合わせた根拠の設定に乏しい。相手の状況に応じた根拠を示すことができないので、説得する力に欠ける。	・より説得力のある説明ができるように、自分の意見を明確に述べ、根拠と主張を結び付けるなどしていく。 ・主張に対して、反証事例を挙げる力を養う。	
c	・自分なりの理由をもとに、自分の意見を伝える相手への配慮を示しながら述べることができる。	・自分なりの解釈をし、伝えようとする努力はあるが、根拠に乏しく、説得力に欠ける。	・情報や意見を伝える時に、情報源の確からしさをより意識して表現する。 ・意見を述べる際に、その理由が適切かどうかを吟味したり、整理したりするなどして、相手に伝わるように心がける。 ・主張に対して複数の根拠を並べ、説得力を増す力を養う。	
d	・自分が得た情報について、自分で考えたことや感じたことなどを示すことができる。	これまでの経験等、自分を基準とした説明を相手の状況に関係なくしてしまう。（自分の意見を伝えること＝最善のことと考えている）	・情報や意見を伝える時に使用する情報を、自分の中で分析・評価してから利用する力を養う。 ・意見を示す際に、自分なりの理由も合わせて述べたり、自分の考えや書いた文章を、他の人の立場に立って読み返す力を養う。 ・主張に対して根拠を述べる力を養う。	

※「事例1」のように記載のあるものは、後ページに詳細を掲載

問題発見・解決力	問題を発見・解決したり、新しいアイデアを生み出したりする力

力の分類	問題発見

レベル	CanDo	つまづきポイント	指導のポイント	指導事例
a	・多角的な視点で考え、潜在的な情報を探し出すことができる。 ・適切な根拠をもとに、問題を批判的に分析し、本質を的確にとらえることができる。 ・ある主張を支えている理由をとらえ、物ごとの根本的な原因を明らかにすることができる。		・問題の根本的な原因を明らかにしようとするとき、原因と結果の関係につながりがあるか確認するという観点を深め、因果関係を考える力を養う。	**◆教科学習における指導事例** ・金沢錦丘高校・現代社会 「『現代の企業の本質的な役割と責任』についての考察」 →事例３ ・金沢錦丘高校・コミュニケーション英語Ⅰ 「バイオミメティックスに関して、積極的に自分の意見を相手に伝える」 →事例４ ・金沢錦丘高校・理科 実験後の考察で、実験結果を分析し新たな課題を見いだす場面を設定する ・柏陽高校・近現代と神奈川「冷戦から21世紀へ」 →事例５ ・柏陽高校・近現代と神奈川「戦後日本経済史」 →事例７ ・林野高校・世界史 時事問題を取り上げ、その問題の背景を歴史的に分析する ・和気閑谷高校・英語 パラグラフ構造を意識した読解の中で、筆者が提起している問題点を意識・把握させる ・和気閑谷高校・公民 「人口爆発」と「環境問題」をフローチャートで作図し、世界の諸問題を多角的に考察 **◆教科学習以外での指導事例** ・岡山操山高校「ディベート」 →事例１ ・岡山操山高校「課題研究（グループ研究）」 →事例２ ・林野高校「大原宿タイムスリップイベント『戦国絵巻』」 →事例８ ・林野高校「MDP（My Dream Project）」→事例９ ・林野高校「むかし倉敷ふれあい祭り」 →事例10 ・総合技術高校「産業探究その１」 →事例11 ・総合技術高校「産業探求その２」 →事例12 ・総合技術高校「産業探究その３」 →事例13 ・総合技術高校「産業探究その４」 →事例14 ・総合技術高校「産業探求その５」 →事例15 ・総合技術高校 「『インターンシップ』における事前学習」 →事例16 ・総合技術高校「インターンシップの実施」 →事例17 ・総合技術高校「『インターンシップ』における学習成果発表」 →事例18 ・総合技術高校「研究ノート」 →事例19 ・和気閑谷高校「宿泊研修『源流の地閑谷で世界と未来を考える』」 →事例21
b	・複数の視点で考え、潜在的な情報を探し出すことができる。 ・根拠をもとに、問題を批判的に評価し、本質をある程度とらえることができる。 ・ある主張を支えている理由や、物ごとの根本的な原因をとらえようとする。	・問題の本質を把握できるが、解決につながる根本的な原因を見出すことができない。	・問題の根本的な原因を明らかにしようとするとき、思いつく原因を書き出し、その原因と結果の因果関係を意識できるようにする。	
c	・複数の視点で考え、自分なりの理由をもとに比較をして、問題の本質を部分的にとらえることができる。 ・ある主張を支えている考えや、物事の根本的な原因について、部分的にとらえることができる。	・問題の有無は認識できるが、その中心点がぼやけてしまっており、本質を指摘できない。 ・表面に現れている事象にとらわれてしまい、潜在的なものに思考が及ばない。	・文章に書かれていなかったり、明示されていなかったりする隠れた情報を探す力を養う。	
d	・自分なりの視点で考え、提起された問題や関連する要素を部分的にとらえることができる。	・日常生活における問題意識に乏しく、そもそも『問題』という概念がない。 ・問題のとらえ方が一面的である。	・世の中の事象について、その理由を考えたり、別の視点がないかを考える習慣を身につける。	

※「事例1」のように記載のあるものは、後ページに詳細を掲載

問題発見・解決力　　問題を発見・解決したり、新しいアイデアを生み出したりする力

力の分類	問題解決			
レベル	CanDo	つまづきポイント	指導のポイント	指導事例
a	・多数の解決策をあらゆる文脈と根拠にもとづいて検証し、統合的に判断した上で、最もよい解決策を示したり、新たな解決策を生み出したりすることができる。 ・実現可能性を考慮した解決策を考えることができる。		・新しい解決策を言語化し、具体性や実現可能性を説明できる力を養う。	**◆教科学習における指導事例** ・金沢錦丘高校・コミュニケーション英語Ⅰ 「バイオミメティックスに関して、積極的に自分の意見を相手に伝える」　→事例４ ・金沢錦丘高校・数学 多くのアプローチが可能な問題を扱い、既習事項を用いた解決策を考えさせる ・柏陽高校・近現代と神奈川「冷戦から21世紀へ」　→事例５ ・柏陽高校・物理基礎「熱力学の法則を理解する」　→事例６ ・林野高校・国語 単元末に「正答のない課題」を提示し取り組ませる ・林野高校・現代社会 現代日本の課題について考え、解決策を提示する ・林野高校・理科 授業内で疑問に思うことを発表させ全体で共有し、グループワークで解決をはかる ・和気閑谷高校・世界史B＋公民 「古代中国思想と皇帝政治」　→事例20 **◆教科学習以外での指導事例** ・岡山操山高校「ディベート」　→事例１ ・岡山操山高校「課題研究（グループ研究）」　→事例２ ・林野高校「むかし倉敷ふれあい祭り」→事例10 ・総合技術高校「産業探求その５」　→事例15 ・総合技術高校「インターンシップの実施」　→事例17 ・総合技術高校「『インターンシップ』における学習成果発表」　→事例18 ・和気閑谷高校「宿泊研修『源流の地閑谷で世界と未来を考える』」　→事例21
b	・複数の視点で考えて探し出した根拠をもとに、複数の解決策を導き出すことができる。 ・複数の解決策を文脈と根拠にもとづいて検証した上で、その中からよりよい解決策を示すことができる。	・解決策のイメージはあるが、その解決策がよりよいものなのかを、検証するところまで至らない（問題とその解決策に関して深く考えようとしているが、現実社会と照らし合わせて、最善の解決策を示すまでには至っていない）。	・様々な視点で検討し、考えた多数の解決策の中から、根拠に基づいて有効な解決策を明らかにする力を養う。	
c	・複数の視点で考え、自分なりの解決策を一つ導き出すことができる。 ・複数の解決策に目を向け、特定の文脈と根拠にもとづいて自分なりの解決策を示すことができる。	・解決策が自分の思考を中心とした狭い範囲になっている（問題に対する解決策を、短絡的に考えてしまう）。	・様々な視点で検討し、多数の解決策を考える力を養う。 ・問題の影響範囲を考えるなど、視野を広げる努力をする。	
d	・何らかの解決策を示すことができる。 ・問題の本質のとらえかたが部分的であり、自分の視点のみで考えた解決策となっている。	・複数の視点を持てず、一つの視点のみでの解決策を提示し、それで満足してしまう。	・他に解決策がないか考え、よりよい解決策を示すことができるようにする。 ・問題の本質を的確にとらえるため、要素を書き出すなどしてみる。 ・問題を構造的に分割・分解する力を養う。	

※「事例1」のように記載のあるものは、後ページに詳細を掲載

人間関係形成力のもととなる認識	多様な他者の考えや価値観を理解し、他者と効果的なコミュニケーションをとり、意見の対立を解消するための解決策を導き出す力のもととなる認識
力の分類	他者理解

レベル	CanDo	つまづきポイント	指導のポイント	指導事例
a	・他者の意見や行動の背景にある考え方や価値観の違いを理解し、協同に向けた調整のポイントを把握することができる。 ・様々な立場の人の考えや気持ちを感じたりとらえたりすることで、状況を的確に把握し、他者を尊重した行動に結びつけることができる。		・様々な立場の人の考えや気持ちを感じたり、とらえたりすることで、よりよいコミュニケーションや良好な人間関係を構築する力を養う。	**◆教科学習における指導事例** ・柏陽高校・近現代と神奈川「冷戦から21世紀へ」 →事例５ ・林野高校・英語 ALTとの授業で、海外の文化を中心に学び多様な文化を尊重する態度を養う **◆教科学習以外での指導事例** ・岡山操山高校「課題研究（グループ研究）」 →事例２ ・林野高校「むかし倉敷ふれあい祭り」 →事例10 ・総合技術高校「産業探究その１」 →事例11 ・総合技術高校「産業探求その２」 →事例12 ・総合技術高校「産業探究その３」 →事例13 ・総合技術高校「産業探究その４」 →事例14 ・総合技術高校 「『インターンシップ』における事前学習」 →事例16 ・総合技術高校「インターンシップの実施」 →事例17 ・和気閑谷高校 「宿泊研修『源流の地閑谷で世界と未来を考える』」 →事例21
b	・他者の意見や行動の背景に、様々な考え方や価値観があることを理解することができる。 ・自分とは異なる様々な立場の人の考えや気持ちを感じたりとらえたりすることが、ある程度できる。	・異なる価値観や意見を理解するが、他者とよりよい世界・状態を生み出すためのポイントが見出せない（価値観の異なる他者とどう協働してよいかわからない）。	・他者の様々な考えや価値観を、さらに深く感じとったりとらえたりする際に、相手の考えや気持ちと、自分の推測があっているかどうか、相手の立場に立って再考する力を養う。	
c	・他者の意見や行動の背景に、様々な考え方や価値観があることがわかる。 ・様々な立場の人の考えや気持ちを知ろうとすることで、状況を的確に把握することができる。	・異なる価値観や意見が存在することは知っているが、それを理解したり協調しようとする意欲に乏しい。	・様々な考えや価値観を持っている人の考えや気持ちを、さらに深く感じたり、捉える力を養う。 ・表面的な言動だけで判断するのではなく、人の真意や置かれている状況も加味しながら推測する力を養う。	
d	・人にはそれぞれ様々な意見や行動があることがわかる。 ・自分とは異なる様々な立場の人が何を考えているのか、どんな気持ちなのかについて、部分的に理解できる。	・物ごとを自分中心に考えてしまい、他者への配慮が欠けることがある。 ・自分の身のまわりにしか、視点が及ばない。（自分自身に内向する）	・なぜ、人には様々な意見や行動があるのかを考えてみる。特に自分とは異なる意見を持つ人が、その意見を持った理由を考えてみる。身近な人と話をする中で、相手の気持ちを考えたり聞いたりしてみる。 ・状況・条件によって自分の意見が変わることを理解する。	

※「事例１」のように記載のあるものは、後ページに詳細を掲載

人間関係形成力のもととなる認識	多様な他者の考えや価値観を理解し、他者と効果的なコミュニケーションをとり、意見の対立を解消するための解決策を導き出す力のもととなる認識
力の分類	多様な他者との協働的問題解決

レベル	CanDo	つまづきポイント	指導のポイント	指導事例
a	・自分と異なる意見を受け止め、その背景を理解したうえで、お互いが納得できるような解決策を考え提案することができる。		・自分と異なる意見を受け止める。 ・意見が対立した際に、よりよい解決方法を考える習慣を身に付ける。 ・解決策を検討する際のプロセスを工夫する。 ・対立した意見を組み合わせることで、新しい解決策が生まれないかを考える。	**◆教科学習における指導事例** ・金沢錦丘高校・コミュニケーション英語Ⅰ 「バイオミメティックスに関して、積極的に自分の意見を相手に伝える」 →事例４ ・柏陽高校・近現代と神奈川「冷戦から21世紀へ」 →事例５ ・柏陽高校・物理基礎「熱力学の法則を理解する」 →事例６ ・柏陽高校・近現代と神奈川「戦後日本経済史」 →事例７ ・林野高校・英語 ALTとの授業で、海外の文化を中心に学び多様な文化を尊重する態度を養う ・林野高校・理科 授業内で疑問に思うことを発表させ全体で共有し、グループワークで解決をはかる **◆教科学習以外での指導事例** ・岡山操山高校「ディベート」 →事例１ ・岡山操山高校「課題研究（グループ研究）」 →事例２ ・林野高校「大原宿タイムスリップイベント『戦国絵巻』」 →事例８ ・林野高校「MDP（My Dream Project）」→事例９ ・林野高校「むかし倉敷ふれあい祭り」 →事例10
b	・自分と異なる意見を受け止め、その背景を理解したうえで、効果的な解決策を考えて提案することができる。	・意見の対立の調整は試みるが、提示した解決策が一方に偏ったものになっており、両者にとっての納得感が薄いものになっている（相手を優先し、自分の意見を調整するなど、歩み寄りの意見集約や行動に関する意識が乏しい）。	・自分と異なる意見を受け止める。 ・解決策のメリット・デメリットを踏まえ、その解決策がお互いに気持ちよく、納得できるものかどうかを意識して検討する。	
c	・自分と異なる意見を受け止め、その背景を理解しようとしている。 ・意見が対立している場合はその内容理解に努め、自分なりの解決策を提示することができる。	・異なる意見を踏まえて、解決に向けた努力はするが、対立点が見出せないため、有効でない解決策を提示してしまう。	・自分と異なる意見を受け止める。 ・解決策のメリット・デメリットをきちんと考え、その解決策が有効・効果的なものかどうかを考える。	
d	・自分と異なる意見が存在することを理解しようとしている。 ・どの点が意見が分かれるポイントになったのかについて、部分的に理解できている。	・異なる意見が存在することはわかるが、どう解決したらよいかわからず、解決策を考えられない。	・自分と異なる意見には、異なる背景や考え方があることを理解する。 ・意見の対立のポイントがどこかを考えてみる。 ・お互いに納得できる解決策を考えてみる。	

※「事例1」のように記載のあるものは、後ページに詳細を掲載

人間関係形成力のもととなる認識	多様な他者の考えや価値観を理解し、他者と効果的なコミュニケーションをとり、意見の対立を解消するための解決策を導き出す力のもととなる認識

力の分類	対人関係におけるコントロール方略			
レベル	CanDo	つまづきポイント	指導のポイント	指導事例
a	・敬語や言葉づかい、コミュニケーションの方法などを、相手や場の状況に応じて使い分けることができ、その場の状況をコントロールすることができる。		・引き続き、相手や状況にあわせて言葉づかいや伝え方を工夫する。	**◆教科学習における指導事例** ・金沢錦丘高校・コミュニケーション英語Ⅰ「バイオミメティックスに関して、積極的に自分の意見を相手に伝える」 →事例４ ・柏陽高校・近現代と神奈川「戦後日本経済史」 →事例７ **◆教科学習以外での指導事例** ・岡山操山高校「ディベート」 →事例１ ・岡山操山高校「課題研究（グループ研究）」 →事例２ ・林野高校「むかし倉敷ふれあい祭り」 →事例10 ・総合技術高校「インターンシップの実施」 →事例17
b	・敬語や言葉づかい、コミュニケーションの方法などを、相手の心情に応じて使い分けることができている。	・相手を考慮した効果的なコミュニケーション方法は選択できるが、場を含めた全体的な状況の把握が弱い。	・相手の気持ちだけではなく、場の状況も踏まえたうえで、自分の気持ちや意図を伝えられるように意識する。	
c	・敬語や言葉づかい、コミュニケーションの方法によって相手への伝わり方が異なることを理解している。	・いろいろなコミュニケーションの方法があることは理解しているが、相手への配慮を踏まえた効果的な方法を選択することができない。	・自分の伝え方が相手にどう受け取られるのかを意識しながらコミュニケーションをとる。 ・自分の言動を客観的に振り返る。	
d	・敬語や言葉づかい、コミュニケーションの方法によって相手への伝わり方が異なることを部分的に理解している。	・正確な敬語表現を知らない。	・伝え方によって、受け取られ方に違いが生まれることを理解する。	

※「事例１」のように記載のあるものは、後ページに詳細を掲載

社会参画力の もととなる認識	これからの社会において、グローバルあるいはローカルな場面で起こりうる様々な問題に積極的に関わり、市民的責任を自覚して行動する力のもととなる認識

力の分類	地球規模の視野と社会への参画意識

レベル	CanDo	つまづきポイント	指導のポイント	指導事例
a	・社会の諸問題を地球規模でとらえ、人間中心的な立場（経済や文化背景など）と自然・生態系の両方の観点から考えることができる。 ・別の問題やシーンに応用して考えたり、関連付けたりすることができる。		・社会の諸問題を考える時、一つの諸問題をきっかけに、地球規模の別問題へ視野を広げて考える力を養う。	**◆教科学習における指導事例** ・金沢錦丘高校・英語 野生生物との共生、北陸新幹線開通後のまちづくり、ロボット社会など、他教科とのコラボの中で社会との関わりをもったテーマ設定をし学習 ・金沢錦丘高校・現代社会 「現代の企業の本質的な役割と責任についての考察」 →事例３ ・柏陽高校・近現代と神奈川「戦後日本経済史」 →事例７ ・林野高校・国語 ESDの観点を持った教材を意識的に取り上げる ・和気閑谷高校・地歴公民 「岡山県の活性化」をテーマにペアワークで資料作成し、文章形式でまとめる ・和気閑谷高校・地歴公民 模擬投票等により、社会の担い手である自覚を促す **◆教科学習以外での指導事例** ・岡山操山高校「課題研究（グループ研究）」 →事例２ ・林野高校「大原宿タイムスリップイベント『戦国絵巻』」 →事例８ ・林野高校「MDP（My Dream Plan）」 →事例９ ・林野高校「むかし倉敷ふれあい祭り」 →事例10 ・和気閑谷高校「宿泊研修『源流の地閑谷で世界と未来を考える』」 →事例21
b	・社会の諸問題を地球規模でとらえ、自分の行動が社会に影響を与えることが認識できる。 ・人間中心的な立場（経済や文化背景など）だけではなく、自然・生態系の観点からも考えることができる。	・地球規模の広い視野で問題に取り組む姿勢を持っているが、一つの問題にとらわれてしまい、複数の問題との関連・総合的な観点を持つことまではできていない。	・社会の諸問題を考える時、一つの諸問題をきっかけに、関連する別の問題へも考えを広める力を養う。	
c	・社会の諸問題を、自分を取り巻く身近な範囲を越えたより広い範囲で考えることができる。 ・自分の行動が社会に影響を与えることを認識し始める。 ・人間活動中心の立場（経済や文化背景など）や、人間にとっての不利益を重視した立場からのみ考えることができる。	・自分が所属する社会までは視野が広がっているが、地球規模にまでは至っていない。 ・人間中心主義である。	・自然や環境・生態系の観点も、人間活動と同じくらい重視して考えてみる。 ・真の意味で持続可能な社会を実現するためにどうすべきかという観点で考えるようにする。	
d	・情報に関して、その正誤に関わらず、いったんの説明を試みることができる。 ・物ごとのつながりや論理的な関係を、部分的・一面的に理解している。	・視野が狭く、自分の身のまわりの限られた範囲の関係性にしか考えが及ばない。	・伝え方によって、受け取られ方に違いが生まれることを理解する。 ・興味関心がないと思う課題に対しても、その課題に関係がある人の立場に立って考える。 ・自然環境や地球の生態系はどうなっているかを考える視点を持つ。 ・一人一人の行動の蓄積が、人間集団や社会に大きな影響を及ぼす場合があることを理解する。	

※「事例１」のように記載のあるものは、後ページに詳細を掲載

（３）系統表の成果と課題

■系統表がすべての施策の背景に

本系統表は、これからの社会で求められる力と、探究学習など学校活動全体で育んでいる力・育みたい力は何かを、研究校の先生方、有識者の先生方と議論し、国内外の様々な事例を参考にしながら作成した。そして、平成 25 年度以降の評価テスト結果や、生徒の発達段階を研究校の先生方と確認しながら、ブラッシュアップしてきた。

こうした検討を経て作成した系統表は、本調査研究の全施策を貫く思想・背景となったが、特にそれが色濃く表れた施策は、以下である。

・評価テスト用問題作成と採点基準
・生徒用「個人診断レポート」に記載されるメッセージ
・授業実践素材の作成
・授業の指導案立案
・生徒への目的説明

系統表をまとめるということは、各能力観の漠然としたイメージを明確な定義として整理することでもあり、それを作成することができたということは、本調査研究の大きな成果の一つと言えよう。

■課題

一方、本系統表については、研究校との検討において、以下のような課題が提示された。

・レベル間の差異の表現について、「的確かつ十分に」と「十分に」との違いのように量的に示されているが、この違いが明確にはわかりにくい。
・レベル間の差異の示し方については工夫が必要であり、例えば、ある教科における具体的な事例に置き換えた場合の、できる・できないの差として表現するなどできるとよい。
・「根拠」「主張」「理由」といった概念について、言葉の定義を明確にした上で提示し、生徒が見ても理解しやすいものにした方がよい。

多様な学習成果の評価手法を下支えする系統表の普及・浸透に当たっては、上記課題についての更なる検討が必要となろう。特に、生徒に対するわかりやすさの追求は重要なポイントであり、レベル間の差異をいかに具体的な内容に落とし込んでいくかも、生徒へのわかりやすさを踏まえた内容にしていくことが重要であろう。

２．研究校指導事例

次ページからの事例は、各研究校に、系統表に記載される能力を育成していると思われる指導実践事例を、教科・教科外問わず資料としてまとめてほしい旨依頼し、平成 27 年度評価手法検討会議にて、各研究校より提出されたものである。取り組みのテーマや対象学年、取り組み内容の詳細などフォーマットに則って記載されており、大いに参考になる資料である。

なお、事例の冒頭にある「事例１」などの表記は、先に掲載の系統表内の指導事例部分のものと対応しているので、合わせて参照されたい。

岡山県立　岡山操山高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例１

課題（ねらい）	ディベート			
テーマ	「軽減税率導入の是非」			
育成する力	**情報の解釈・分析・評価**	**問題発見**	他者理解	**対人関係におけるコントロール方略**
	論理的な表現力	**問題解決**	**多様な他者との協働的問題解決**	地球規模の視野と社会への参画意識
対象	学校全体	**学年全体**	**クラス**	その他
指導枠	教科	**総学**	課外	その他（行事等）
授業時間（コマ数）	準備時間　５０分×２コマ　　クラス大会　５０分×２コマ 学年大会　５０分×２コマ　　合　　計　５０分×６コマ			
指導の流れ	最初はクラス単位で、「ディベート活動」の導入を行った。一般的なディベートの進行方法やルールの確認、準備に際しての注意事項を指導した。各クラスを９つのチームに分けて、班ごとに準備を進めた。情報教室、図書室を活用する時間を含めて、準備時間は各クラス２コマであり、それ以外に放課後や昼休みなど空き時間を見つけて準備をするよう指導した。その後クラス大会を行い、トーナメント戦出場チームとリーグ戦出場チームを選出した。さらに、学年大会をトーナメント戦とリーグ戦に分けて行い、トーナメント戦とリーグ戦の合計ポイントで優勝したクラスを表彰した。最後のトーナメント戦の決勝戦は学年全員で観戦した。学年大会終了後、学年主任よりディベート活動全般の振り返りと、活動の位置づけの再確認としてまとめのコメントを送った。			
学習素材	特になし			
指導のポイント	ディベートの導入に際して、このディベートは２年次に行う課題研究の基礎となる力（課題解決・情報分析・協働性など）を養うために行うものであり、ディベートそのもの（勝ち負けも含む）が目的ではないということを強調した。 チーム分けでは、なるべく普段関わりのない者同士が同じ班になるように、また学力差も均等になるように行い、協働性とコミュニケーション能力を高めるよう配慮した。			
評価観点	活動全般に対する積極性・意欲 論理的思考力			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	生徒自身が今まで知りもしなかった「軽減税率」の存在を知り、さらには様々な税制度に対する理解と税の果たす社会保障面での役割について深く考えることができた。また物事のメリット・デメリットを双方の立場から考え、一見対立軸のあるテーマに対して、最適な解決策を探すことの重要性についても理解することができた。普段はあまり前に出ることのない生徒も、役割を与えられたことで、周囲の友人と協力して自分の役割を果たそうとする姿勢が見られた。			

岡山県立　岡山操山高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例２

課題（ねらい）	課題研究（グループ研究）			
テーマ	「貧困と飢餓」「紛争と平和」「教育」「健康と疾病」「貿易と開発」「持続可能な開発と環境問題」			
育成する力	**情報の解釈・分析・評価**	**問題発見**	**他者理解**	**対人関係におけるコントロール方略**
	論理的な表現力	**問題解決**	**多様な他者との協働的問題解決**	**地球規模の視野と社会への参画意識**
対象	学校全体	**学年全体**	クラス	その他
指導枠	教科	**総学**	課外	その他（行事等）
授業時間（コマ数）	15（基本的には毎週水曜日７限だが、時間割を組み替えて２時間連続もあり）			
指導の流れ	**７月** 大学教授を招き、課題研究の意義・手法についての講義を受け、大学院生の助言をもとに研究テーマを決定する。 **９月～12 月** グループで研究活動を実施する。この間、大学教授が２回、大学院生が３回来校し、指導に当たる。 **１月** 各系統から代表グループが１班（合計６班）がパワーポイントを用いて、全体発表を行い、それ以外のグループがポスターセッション形式で発表を行う。			
学習素材	各グループが設定したテーマによる。 課題研究テーマの例としては、「フェアトレード」「イスラエルとパレスチナ」「臓器移植」「少子高齢社会における労働力の確保」「太陽光発電の送電効率」など。			
指導のポイント	今年度がはじめてのグループ研究であり、研究内容よりもコミュニケーション能力・リーダーシップの育成に主眼を置いた。研究テーマに関連のある書籍や効果的なプレゼンテーションに関わる書籍を講読させ、研究論文については役割分担をさせて進めた。専門的な内容については、大学教授に質問ができるようにプログラムを組み、定期的に大学院生のアドバイスを受けた。			
評価観点	本校が育成するグローバルリーダーの５つの資質・能力である「幅広く深い教養」「課題解決能力」「コミュニケーション能力」「リーダーシップ」「社会貢献の意識」（別紙参照）の観点から評価を行う。			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	・課題設定の困難さ ・グループ内での議論不足 ・資料収集不足 ・コミュニケーション、リーダーシップの不足			

石川県立　金沢錦丘高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例３

課題（ねらい）	自ら探究し発信する力を育むためのパフォーマンス課題の実践と評価			
テーマ	「現代の企業の本質的な役割と責任」についての考察 ー「就活を行う大学生」になりきり具体的な企業の魅力を調べる活動を通してー			
育成する力	**情報の解釈・分析・評価**	**問題発見**	他者理解	対人関係におけるコントロール方略
	論理的な表現力	問題解決	多様な他者との協働的問題解決	**地球規模の視野と社会への参画意識**
対象	学校全体	**学年全体**	クラス	その他
指導枠	**教科**	総学	課外	その他（行事等）
授業時間（コマ数）	現代社会の授業（６時間）			
指導の流れ	第１時　：企業の活動について、知識・理解の観点から講義を行った。 第２～４時：「就職活動を行う大学生」になりきり、具体的な企業の努力・工夫・魅力をまとめるというパフォーマンス課題を提示。その後、第２～４時にかけてグループ別に探究活動を行い、提示した１０社の企業について、①その企業の活動概要、②消費者や社会の幸福に対する工夫、③企業の魅力をワークシートのステップに合わせて調べ、考察させた。 第５時　：この活動のメインとなる発表を、ジグソー法を用い、グループを解体して新しく作った４人グループの中で行わせた。その後、その内容を踏まえ、グループでさらに一段階考察させた。 第６時　：「企業の不祥事」という視点から企業について再考察し、「企業の本質的な役割と責任」について個人でまとめさせた。			
学習素材	・タブレット端末上の説明資料（活動内容を視覚的に提示するためのもの） ・パフォーマンス課題提示用ワークシート（活動の趣旨・展開を表記したもの） ・グループ活動用ワークシート（ステップに合わせ調べ学習を行う上で使用） ・発表用ワークシート（グループに１枚発表内容を成果物としてまとめるもの） ・個人まとめ用ワークシート（活動を通して学んだことを個人で振り返るもの）			
指導のポイント	・「現実的な文脈」に落とし込んだパフォーマンス課題を実施することにより、生徒の活動意欲の向上や、学問の現実との関係性を示す試みを行った。 ・発表を個人にすることで、発表会形式とは違うプレゼンの方式を試みた。 ・このような活動において、ルーブリックによる一律の評価（担当者４人で同質の授業の展開も）や、活動の思考プロセスを評価する試験の作成を試みた。			
評価観点	・発表用ワークシート（成果物）とその発表、個人まとめ用ワークシートの内容について、それぞれにＡ・Ｂ・Ｃ３段階のルーブリックを作成し、そのうちのＡの評価を事前に生徒に提示しておいた。それらを総合して活動自体を評価し、数値化して成績に盛り込んだ。 ・合わせて、試験において、活動の中で用いた思考プロセスを利用して答えるべき問題を作成し、評価した。			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	生徒が発表に向けて意欲的に活動する様子や、自分なりに表現しようとする姿勢が見られた。また、授業者側にも、発表や成果物における評価の方式がある程度見えてきたように思う。ただし、今回の活動が生徒に考えさせたい「本質的な問い」に迫るものであったかは、今後さらに吟味し磨く必要がある。			

石川県立　金沢錦丘高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例４

課題（ねらい）	ルーブリックに基づくパフォーマンス課題の実践と評価			
テーマ	バイオミメティックス（自然界の生物やその生態の仕組みを模倣して、人間の工学技術に応用する科学技術）に関して、積極的に自分の意見を相手に伝える			
育成する力	**情報の解釈・分析・評価**	**問題発見**	他者理解	**対人関係におけるコントロール方略**
	論理的な表現力	**問題解決**	**多様な他者との協働的問題解決**	地球規模の視野と社会への参画意識
対象	学校全体	**学年全体**	クラス	その他
指導枠	**教科**	総学	課外	その他（行事等）
授業時間（コマ数）	コミュニケーション英語Ⅰの授業（８時間）			
指導の流れ	第一次：教科書から本文全体の概要を読み取るリーディング活動（１時間） 第二次：読み取った英文についてペアで理解を深め、バイオミメティックスの活用事例の内容を口頭で要約するスピーキング活動（２時間） 第三次：各グループに与えた、教科書本文には掲載されていないバイオミメティックスの応用事例についてタブレット端末を用いて調べ、さらにバイオミメティックスを活用したオリジナルの製品を考案するための探究活動（２時間） 第四次：発表準備の後、バイオミメティックスの応用事例と自分たちのオリジナルの製品について発表を行うスピーキング活動及び発表した内容を記述するライティング活動（３時間）			
学習素材	・タブレット端末（調べた写真等を聴き手に示すため） ・ワークシート（発表用のものと聞き取った内容を書き取るもの） ・ホワイトボード（発表時に聴き手に内容をより具体的に伝えやすくするため）			
指導のポイント	・生徒につけさせたい力を明確化した後、評価基準のためのルーブリックを作成し、パフォーマンス課題を設定した。 ・探究活動が単なる調べ学習にならないよう、生徒が「創造力」と「他者と協働する力」を活用してオリジナルのアイデアを想起させる活動を取り入れた。 ・また、試験問題を事前に作成し生徒に示すことで、指導と評価の一体化および生徒の学習に対するモチベーションの向上を図った。			
評価観点	・評価はプレゼンテーションとライティングの２つに分けてそれぞれ行った。 ・プレゼンテーションについては、暗唱、資料の活用、伝えようとする意思、音量の４観点から評価を行い、内容に関しては評価を行わなかった。 ・内容の評価はライティングで行い、バイオミメティックスの活用事例の説明ができているか、オリジナルの商品が効果的に説明されているかを評価した。			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	各グループが計６回プレゼンテーションをする中で徐々に変容し、よりよいパフォーマンスができるようになっていく姿が見られた。今後は、聴き手にも役割を持たせるために、発表の中に Audience Engagement を導入することで、発表を聞き流すのではなく、参加する意識を持たせることができると思われる。さらにフィードバックを適切に行い、それぞれのグループに具体的な指導ができるように、教師自身がプレゼン力に関する理解を深めることも必要である。			

神奈川県立　柏陽高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例５

課題（ねらい）	高度経済成長から現代にいたる戦後経済史の流れを理解した上で、現代から過去にさかのぼって歴史を学習することにより、歴史の諸事象についての理解をより深める			
テーマ	冷戦から２１世紀へ			
育成する力	**情報の解釈・分析・評価**	**問題発見**	**他者理解**	対人関係におけるコントロール方略
	論理的な表現力	**問題解決**	**多様な他者との協働的問題解決**	地球規模の視野と社会への参画意識
対象	学校全体	学年全体	**クラス**	その他
指導枠	**教科**	総学	課外	その他（行事等）
授業時間（コマ数）	65 分×５コマ			
指導の流れ	・高度経済成長はなぜ可能だったのか。また経済の成長は人々の生活をどう変えたか。 ・高度経済成長が終焉してもなぜ安定成長を続けることができたか、またその問題点は何か ・「失われた 20 年」はなぜ起こったのか。またその間に人々の生活はどう変わったか。 ・トヨタ自動車新車販売台数の推移の背景を考察し発表する。 ・プラザ合意の衝撃。プラザ合意からベトナム戦争までをさかのぼる。			
学習素材	・教科書『近現代と神奈川』神奈川県教育委員会 ・自主作成プリント			
指導のポイント	・戦後の日本経済についての歴史的展開を理解する。 ・戦後の日本経済の歩みを簡潔にまとめることができる。 ・学んだ知識を活用して歴史的事象の因果関係を主体的に考察することができる。			
評価観点	・**関心・意欲・態度**：戦後の経済復興、技術革新と高度成長、経済の国際化など日本経済の発展と国民生活の向上に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究する。 ・**思考・判断・表現**：戦後の経済復興、技術革新と高度成長、経済の国際化など日本経済の発展と国民生活の向上から課題を見いだし、生活意識や価値観の変化と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。 ・**資料活用の技能**：文献、新聞、絵画、地図、写真、映像、統計・グラフなどの諸資料や、聞き取りなどによる様々な情報を収集し、有用な情報を選択して活用することなどを通して、歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現している。 ・**知識・理解**：戦後の経済復興、技術革新と高度成長、経済の国際化など日本経済の発展と国民生活の向上についての基本的な事柄を世界の動向と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	学んだ知識と自らの知識を生徒は積極的に統合して活用し表現を行っていた。他者の発表に対する評価や自らの発表に対する自己評価の場を設けると尚意欲的な取り組みになった。			

神奈川県立　柏陽高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例６

課題（ねらい）	・熱と温度について、原子や分子の熱運動という視点から理解する ・熱の移動及び熱と仕事の変換について理解する			
テーマ	熱力学の法則を理解する			
育成する力	**情報の解釈・分析・評価**	問題発見	他者理解	対人関係におけるコントロール方略
	論理的な表現力	**問題解決**	**多様な他者との協働的問題解決**	地球規模の視野と社会への参画意識
対象	学校全体	学年全体	**クラス**	その他
指導枠	**教科**	総学	課外	その他（行事等）
授業時間（コマ数）	65 分×５コマ			
指導の流れ	・温度が熱運動の激しさであることを理解している。（ワークシート） ・物質の三態と状態変化について、分子、原子の立場から説明することができる。（ワークシート） ・熱がエネルギーとして扱うことができることを理解し、熱量保存の法則を利用することができる。（ワークシート） ・状態変化を理解し、熱力学第 1 法則を利用することができる（グループワーク・ワークシート） ・熱の有効利用について考えることができる。			
学習素材	・教科書：物理基礎　東京書籍 ・教材：自主作成プリント			
指導のポイント	・ジグソー法を用いて発展的内容をグループワークにより取り組ませることでグループワークを活性化させる。 ・協働して問題に取り組むことで、既習事項の理解を深める。			
評価観点	**・関心・意欲・態度**：現象に関心を持ち、学習活動に積極的に取り組むことができる。 **・思考・判断・表現**：原子や分子の熱運動というミクロな立場から、物質の三態変化、絶対温度、及び潜熱（融解熱、蒸発熱）というマクロな現象について理解している。 **・知識・理解**：熱量、熱容量、比熱、及び熱量の保存について理解し、熱を定量的に扱うことができる。また、仕事と熱の変換、内部エネルギー、及び熱力学第 1 法則について学び、熱現象とエネルギーの関係について理解することができる。			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	・ジグソー法を用いることで、グループワークが他者任せにならず活性化した。 ・協働して問題に取り組むことで、問題の理解と定着に改善がみられた。 ・グループの形の方が問題演習に取り組み易いとの感想があった。			

神奈川県立　柏陽高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例７

課題（ねらい）	・日本国債の累積債務残高増加の背景を考察する ・戦後日本経済史で習得した知識を活用する ・近代史において日本国債が果たした役割を理解する			
テーマ	戦後日本経済史			
育成する力	**情報の解釈・分析・評価**	**問題発見**	他者理解	対人関係におけるコントロール方略
	論理的な表現力	問題解決	**多様な他者との協働的問題解決**	**地球規模の視野と社会への参画意識**
	学校全体	学年全体	**クラス**	その他
指導枠	**教科**	総学	課外	その他（行事等）
授業時間（コマ数）	65 分×5 コマ			
指導の流れ	・1950 年代から 70 年代前半の高度経済成長期について基礎的知識を習得する。（ワークシート） ・1970 年代から 1980 年代までの安定成長期について基礎的知識を習得する。（ワークシート） ・1990 年代から現代までのデフレ期についての基礎的知識を習得する。 ・戦後の日本国債の累積債務残高の累増を示すグラフから、上記の３期間におけるグラフの変異の背景についての仮説を立て発表させる。			
学習素材	・教科書『近現代と神奈川』神奈川県教育委員会			
指導のポイント	・近代史の経済における「国債」の役割の事例（日露戦争・高橋財政）を取り上げ、国債発行の目的を理解する。 ・累積債務残高の推移のグラフから、その背景について、授業で習得した戦後日本経済史の知識を活用して考える。 ・グループで考察した内容について、簡潔にまとめ発表させる。その際、ホワイトボードを使用しプレゼンテーションの技術を育成する。			
評価観点	**・関心・意欲・態度**：戦後の日本の経済発展と国民生活の向上と変化に対する関心と課題意識を高め、意欲的に取り組んでいる。 **・思考・判断・表現**：戦後の経済的変化やその背景について、多面的・多角的に考察するとともに、歴史事象を公正に判断し、表現している。 **・資料活用の技能**：写真・新聞・映像・統計・グラフなどの諸資料を収集し、有用な情報を取捨選択して活用できている。 **・知識・理解**：戦後の日本経済についての基礎的・基本的な知識を身につけている。また世界と日本との関わりを理解している。			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	学んだ知識を積極的に活用して生徒は考察を進めていた。習得の時間を課題という形で、家庭学習に一部置き換えたことにより、グループ内の意見に加えて、生徒の個性が発揮される発表になった。			

岡山県立　林野高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例８

課題（ねらい）	地域活性化イベントの企画と実施(観光交流人口の増加)			
テーマ	大原宿タイムスリップイベント「戦国絵巻」			
育成する力	情報の解釈・分析・評価	**問題発見**	他者理解	対人関係におけるコントロール方略
	論理的な表現力	問題解決	**多様な他者との協働的問題解決**	**地球規模の視野と社会への参画意識**
対象	学校全体	学年全体	クラス	**その他（選択）**
指導枠	**教科:みまさか学Ⅱ**	総学	課外	その他（行事等）
授業時間(コマ数)	3 単位(2+1)			
指導の流れ	※3 年次生選択科目であり、今回の受験学年とは異なっている。 5 月　イベントのイメージワード決定 6 月　フィールドワーク①(地域のニーズ聞き取り) 7 月　NPO タブララサからアドバイザー招聘(11 月まで)　プラン見直し 8 月　企画書作成　中間報告 9 月　フィールドワーク②　地域イベントとの共催決定 10 月　チラシ・小物作成・衣装準備 11 月　イベント開催　報告プレゼンテーション① 2 月　活動報告書作成　プレゼンテーション②			
学習素材	フィールドワーク			
指導のポイント	・「問題発見」から「振り返り」まで、生徒主体で取り組ませつつ、専門家から忌憚のないアドバイスを受けた。 ・高校生単独開催イベントではなく、地域と共催する形を取ることで、社会的な視点と責任を持たせた。 ・中間期／イベント終了後／後輩への報告と 3 度のプレゼンテーション場面を設定した。			
評価観点	・協働的問題解決能力 ・課題解決の方法の考察と成果の検証			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	○単に「イベントをして楽しかった」に留まらず、社会的に見てどのような意味があり、改善点がどこにあるのか、それを事後検証するためにどのような準備が必要なのかを見通した計画を立てることができた。(課題発見・解決能力、計画性の向上) ×持続可能なイベントとして計画したが、現実的には単年度のプランになってしまい、検証ができなかった。			

岡山県立　林野高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例９

課題（ねらい）	総合的な学習の時間における課題発見ー解決型学習			
テーマ	フィールドワークを通して伝承と文献資料との違いを調べる(文化歴史グループ)			
育成する力	情報の解釈・分析・評価	**問題発見**	他者理解	対人関係におけるコントロール方略
	論理的な表現力	問題解決	**多様な他者との協働的問題解決**	**地球規模の視野と社会への参画意識**
対象	**学校全体**	学年全体	クラス	その他（選択）
指導枠	教科	**総学**	課外	その他（行事等）
授業時間(コマ数)	2 単位			
指導の流れ	※本校の「総合的な学習の時間」（校内名称 MDP: My Dream Project）は、生徒各自の興味関心に従って選択したテーマごとに、1～3 年次生の縦割りで構成される 10 のグループに分かれて活動している。この事例はそのうちの「文化歴史」グループの活動をピックアップしたものである。 4 月　年間の活動テーマを設定 5 月　フィールドワーク準備(下調べ) 6 月　フィールドワーク①(美作市ボランティアガイドの方に案内を依頼) 7 月　フィールドワーク②(9 月の中間報告に向けて、資料の収集) 8 月　フィールドワーク③(9 月の中間報告に向けて、資料の収集) 9 月　分析と考察、「むかし倉敷ふれあい祭り」で中間発表 10 月　中間発表での指摘を踏まえて、発表内容の修正とブラッシュアップ 12 月　MDP 実践報告会で発表、個人レポートの作成 1 月　個人レポートのクラス発表、年間活動の振り返り、自己評価			
学習素材	・「ESD の構成概念」に基づいた活動計画/振り返りシート ・ルーブリックを活用した、各ステップごとの自己評価シート ・ステップごとの評価シート ・「ESD で身に付けたい能力・態度」に基づいた自己評価グラフ ・個人レポート作成に向けた整理用ワークシート			
指導のポイント	・テーマ設定から活動、まとめに至る活動の様々な場面で、「持続発展可能な社会の実現」という ESD の意識を持たせる。 ・「取り返しのつく失敗」を体験させ、対処法も自分たちで考えさせる。 ・できる限り地域の方々と交流できる場面を設定する。			
評価観点	・多面性/有限性/公平性/連携性/責任性/相互性（ESD の構成概念） ・批判/未来/多面/伝達/協力/関連/参加（能力と態度）			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	○文献資料と伝承の比較という、ある意味では大きなテーマに対して、各自が実際にその地に立ち、実体験を下敷きにして考察を進めていく体験ができた。 ○「むかし倉敷ふれあい祭り」での中間発表の際、地域の方だけでなく美作市長からも、厳しさを交えた様々な御指摘を頂き、奮起するきっかけとなった。 ○地域の再発見から地域愛の醸成と、ESD に関連づけて考えることができた。 ×文献資料として『太平記』を設定したが、これを読み込む時間が不十分であった。 ×1 年次生にとっては活動が難解で、方向性が見えにくかったかもしれない。			

岡山県立　林野高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例 10

課題（ねらい）	地域活性化イベントの企画と実施(地域活性化と交流)			
テーマ	地域との共催イベント「むかし倉敷ふれあい祭り」の企画と実施			
育成する力	**情報の解釈・分析・評価**	**問題発見**	**他者理解**	**対人関係におけるコントロール方略**
	論理的な表現力	**問題解決**	**多様な他者との協働的問題解決**	**地球規模の視野と社会への参画意識**
対象	学校全体	学年全体	クラス	**その他（選択）**
指導枠	教科	総学	**課外**	その他（行事等）
授業時間(コマ数)	課外活動			
指導の流れ	※1・2 年次生から募った委員会メンバーによる。 5 月　実行委員公募(1 年次生 12 名、2 年次生 14 名が応募した) 6 月　第 1 回合同実行委員会(地区町内会長、行政、本校関係者による) 7 月　第 2 回合同実行委員会(同上) 8 月　第 3 回合同実行委員会(同上) 9 月　第 4 回合同実行委員会(同上)・第 5 回むかし倉敷ふれあい祭り開催 10 月　第 5 回合同実行委員会(同上) 12 月　実践報告会で発表 2 月　報告レポート作成(『MDP 実践報告書』冊子に所収)			
学習素材	なし			
指導のポイント	・合同実行委員会の開催案内・司会進行・記録等、生徒主体で取り組ませた。 ・委員会メンバーの役割分担を意識させ、責任を持って業務に当たらせると共に、他のメンバーのフォローにも気を配らせた。 ・いわゆる「大人の世界」で通用するレベルの会議マナー、司会進行の方法についても意識を持たせるようにした。 ・単なる「お祭り」に終わることなく、「持続発展可能な地域づくり」という目的を意識させるようにした。			
評価観点	・協働的問題解決能力(年代や立場の異なる集団での、目標を共有した協働) ・汎用的コミュニケーション能力 ・企画力、表現力 ・責任性			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	○開催も今年度で 5 回目となり、地域の方々との協力体制が形になってきたと同時に、様々なアイディアを提示していただけるようになった。(生徒と地域の変容) △テント出店団体への依頼・連絡など、「生徒に任せる部分」を拡大していき、さらに生徒主体の行事にしていきたい。			

広島県立　総合技術高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例 11

①学校設定科目「産業探求」その１

課題（ねらい）	・職場見学、職業人による講演・実演、生徒による研究・調査、各学科での体験実習等によって、実際の企業活動および職業人の勤労観、職業観を理解し、生徒自身の勤労観、職業観を身に付けることができる ・産業全体への理解及び自己理解を深め、ライフプランを立案させることにより、将来の生活や自分の人生に見通しをもつことができる			
テーマ	「産業探求」の概要を理解し、産業・職業・自己について理解を深め、社会が求める勤労観・職業観を身に付けることができる			
育成する力	**情報の解釈・分析・評価**	**問題発見**	**他者理解**	対人関係におけるコントロール方略
	論理的な表現力	問題解決	多様な他者との協働的問題解決	地球規模の視野と社会への参画意識
対象	学校全体	**学年全体**	クラス	その他
指導枠	教科	**総学**	課外	その他（行事等）
授業時間（コマ数）	５時間			
指導の流れ	ａ　「産業探求」とは（シラバス説明）　自己分析のワーク作業 ｂ　「10 年後の私　20 年後の私」ライフプラン立案Ⅰワーク作業 ｃ　産業の発展と社会（テキスト＋調べ学習）			
学習素材	自主編成テキスト＋プリント（ファイルに綴じる）			
指導のポイント	「産業探求」のねらいを理解させ、自らの希望進路を決める手がかりとなることを説明し、社会に合流するための準備期間の終盤となっていることを自覚させる。			
評価観点	**関心・意欲・態度** ・「産業探求」という科目や自己の将来に関心をもち、ライフプランの立案に向けて意欲的に取組むことができる。 **思考・判断・表現** ・働くことの意義や働き方について深く思考し、職業選択のあり方について適切に判断できる。 ・ライフプランを立案することができ自己の将来像を表現できる。			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	なりたい自分の姿をまだイメージできない生徒が多く、具体的な記述が少ない。			

広島県立　総合技術高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例 12

②学校設定科目「産業探求」その２

<table>
<tr><td>課題（ねらい）</td><td colspan="4">・職場見学、職業人による講演・実演、生徒による研究・調査、各学科での体験実習等によって、実際の企業活動および職業人の勤労観、職業観を理解し、生徒自身の勤労観、職業観を身に付けることができる
・産業全体への理解及び自己理解を深め、ライフプランを立案させることにより、将来の生活や自分の人生に見通しをもつことができる</td></tr>
<tr><td>テーマ</td><td colspan="4">地場産業について調べ・整理し・発表することで、産業や職業の種類、内容について理解し、収集した結果を適切に表現できる</td></tr>
<tr><td rowspan="2">育成する力</td><td>情報の解釈・分析・評価</td><td>問題発見</td><td>他者理解</td><td>対人関係におけるコントロール方略</td></tr>
<tr><td>論理的な表現力</td><td>問題解決</td><td>多様な他者との協働的問題解決</td><td>地球規模の視野と社会への参画意識</td></tr>
<tr><td>対象</td><td>学校全体</td><td>学年全体</td><td>クラス</td><td>その他</td></tr>
<tr><td>指導枠</td><td>教科</td><td>総学</td><td>課外</td><td>その他（行事等）</td></tr>
<tr><td>授業時間（コマ数）</td><td colspan="4">４時間（準備：２時間、発表：２時間）</td></tr>
<tr><td>指導の流れ</td><td colspan="4">ａ　発表資料作成についての説明
ｂ　プレゼンテーション企画書作成
ｃ　パワーポイント作成
ｄ　発表</td></tr>
<tr><td>学習素材</td><td colspan="4">プリント（ファイルに綴じる）</td></tr>
<tr><td>指導のポイント</td><td colspan="4">ミックスＨＲでの活動となるため、他学科生徒の着目点などを参考にし、協働する意識を高めるよう指導する。</td></tr>
<tr><td>評価観点</td><td colspan="4">技能
・産業や職業の種類、内容に関する諸資料を収集する技能を身につけ、活用することができる。
思考・判断・表現
・収集した結果を創意工夫して適切に表現できる。</td></tr>
<tr><td>指導を通しての気づき（よかったところや改善点）</td><td colspan="4">自分が生活している地域の産業について、グループを作り調べ学習を行った。新たな発見をした生徒が多かった。他グループの発表を聞いて、県内全域の産業の特徴を理解することができた。</td></tr>
</table>

広島県立　総合技術高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例 13

③学校設定科目「産業探求」その３

課題（ねらい）	・職場見学、職業人による講演・実演、生徒による研究・調査、各学科での体験実習等によって、実際の企業活動および職業人の勤労観、職業観を理解し、生徒自身の勤労観、職業観を身に付けることができる ・産業全体への理解及び自己理解を深め、ライフプランを立案させることにより、将来の生活や自分の人生に見通しをもつことができる			
テーマ	他学科の生徒がどのようなことを学んでいるのか、体験実習をとおして、他学科を理解し、幅広い見識を持つ良い機会となる			
育成する力	情報の解釈・分析・評価	**問題発見**	**他者理解**	対人関係におけるコントロール方略
	論理的な表現力	問題解決	多様な他者との協働的問題解決	地球規模の視野と社会への参画意識
対象	学校全体	**学年全体**	クラス	その他
指導枠	教科	**総学**	課外	その他（行事等）
授業時間（コマ数）	６時間（説明：１時間、体験：５時間）			
指導の流れ	ａ　実習内容についての説明 ｂ　体験実習（自科以外の５学科） ｃ　報告書の作成・提出（課外課題）			
学習素材	各学科作成プリント（ファイルに綴じる） 報告書シート			
指導のポイント	他学科の体験実習を通して、各学科の学習している内容が産業や職種にどう結びついているのかを考えさせ、各自の学科の学習内容について再確認をし、希望進路の方向性を確認できるよう指導する。			
評価観点	**関心・意欲・態度** ・他学科の体験実習に対して、意欲的に取り組むことができる。 **思考・判断・表現** ・学習した内容と感想を報告書として表現できる。			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	他学科の体験実習を通して、各学科の学習内容を比較することにより、各自の学科の理解が深まった。実習レポートを毎回作成することにより、学んだことの定着をはかることができた。			

広島県立　総合技術高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例 14

④学校設定科目「産業探求」その４

課題（ねらい）	・職場見学、職業人による講演・実演、生徒による研究・調査、各学科での体験実習等によって、実際の企業活動および職業人の勤労観、職業観を理解し、生徒自身の勤労観、職業観を身に付けることができる ・産業全体への理解及び自己理解を深め、ライフプランを立案させることにより、将来の生活や自分の人生に見通しをもつことができる			
テーマ	各学科毎に職場見学を実施し、働くことのイメージを自らのものにし、職業的な自立に必要な意欲や態度を身につけることができる			
育成する力	情報の解釈・分析・評価	**問題発見**	**他者理解**	対人関係におけるコントロール方略
	論理的な表現力	問題解決	多様な他者との協働的問題解決	地球規模の視野と社会への参画意識
対象	学校全体	**学年全体**	クラス	その他
指導枠	教科	**総学**	課外	その他（行事等）
授業時間（コマ数）	８時間（事前学習：２時間、見学：６時間［１日］）			
指導の流れ	a　働くことの意味・働き方について説明 b　見学先事前学習 c　職場見学の実施（各学科ごとバスで移動：基本的に２カ所） d　報告書の作成・提出（課外課題）			
学習素材	自主編成テキスト＋各学科作成プリント（ファイルに綴じる） 報告書シート			
指導のポイント	働くことの意義や大切さを理解し、社会において必要なマナーを意識した行動が実際にできるかが大切であること。インターンシップとの繋がりを指導する。			
評価観点	**関心・意欲・態度** ・自己実現に向けて、関連する職業に関心を持ち、企業の求める人材像やその職業に必要とされる資質ついて意欲的に調べようとすることができる。 **技能** ・マナーの必要性や意識を理解し、企業が求める人材像としての行動ができる。 **知識・理解** ・インターンシップの概要やねらいについて理解できる。			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	多くの生徒が緊張感をもって真剣に、企業や上級学校を見学したり、講義・説明を聞いたりすることができ、職業観や勤労観を育成することができた。報告書を丁寧に作成した生徒が多かった。グループで新聞作成を行い、発表を互いに行い、他学科の学びについても共有することができた。			

広島県立　総合技術高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例 15

⑤学校設定科目「産業探求」その５

課題（ねらい）	・職場見学、職業人による講演・実演、生徒による研究・調査、各学科での体験実習等によって、実際の企業活動および職業人の勤労観、職業観を理解し、生徒自身の勤労観、職業観を身に付けることができる ・産業全体への理解及び自己理解を深め、ライフプランを立案させることにより、将来の生活や自分の人生に見通しをもつことができる			
テーマ	産業全体への理解及び自己理解を深め、ライフプランを立案させることにより、将来の生活や自分の人生に見通しをもつことができる			
育成する力	**情報の解釈・分析・評価**	**問題発見**	他者理解	対人関係におけるコントロール方略
	論理的な表現力	**問題解決**	多様な他者との協働的問題解決	地球規模の視野と社会への参画意識
対象	学校全体	**学年全体**	クラス	その他
指導枠	教科	**総学**	課外	その他（行事等）
授業時間（コマ数）	６時間（自己理解：２時間、準備：２時間、発表：２時間）			
指導の流れ	a　自分の興味や得意分野について b　「10 年後の私　20 年後の私」ライフプラン立案Ⅱ発表準備 c　「10 年後の私　20 年後の私」ライフプランの発表			
学習素材	自主編成テキスト＋プリント（ファイルに綴じる）			
指導のポイント	自己理解のために適性検査の結果の見直しや自己分析ワークの結果を参考にする。先輩のインターンシップ発表会を聴いての感想文も参考に指導する。			
評価観点	**思考・判断・表現** ・自己理解やライフプラン立案に関して思考を深め、自己理解に基づいたライフプランとして適切であるかを判断できる。 **技能** ・1 年間学習した内容において、一層理解を深め、研究した内容を発表・発信できるプレゼンテーション技能を身に付けることができる。			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	４月当初に立案したライフプランと比較すると、具体的な記述が増えた。学習成果発表会や卒業生を囲む会、職業インタビューなどを通して、刺激を受け、自分の将来について真剣に考えた生徒が多かった。			

広島県立　総合技術高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例 16

⑥学校設定科目「インターンシップ」における事前学習

課題（ねらい）	インターンシップを通し、勤労観・職業観及び職業に関する知識・理解を深め、自己の将来の在り方・生き方について考えた内容から、今後の進路について考えることができる			
テーマ	インターンシップの目的と社会人としてのマナーの必要性を理解し、好感が持てる言動を行うことができ、自らのインターンシップの目標を明確化し、有意義なインターンシップの実施に繋ぐことができる			
育成する力	**情報の解釈・分析・評価**	**問題発見**	**他者理解**	対人関係におけるコントロール方略
	論理的な表現力	問題解決	多様な他者との協働的問題解決	地球規模の視野と社会への参画意識
対象	学校全体	**学年全体**	クラス	その他
指導枠	教科	**総学**	課外	その他（行事等）
授業時間（コマ数）	１３時間			
指導の流れ	a　インターンシップとは（実習先企業の希望調査） b　社会人としてのマナーは身に付いているか（市販ＤＶＤ活用） ①職場で働くとは　②挨拶から始まるコミュニケーション　③敬語 ④訪問のマナー　※ロールプレイイングの実施 c　実習先の企業研究 d　実習日誌の書き方、自己紹介カードの作成（事前アンケートの実施）			
学習素材	自主編成テキスト＋プリント（ファイルに綴じる）			
指導のポイント	近い将来、社会で働くことを自覚させ、必要な知識と好感が持てる言動について考えさせ、実際に行動ができるように指導する。			
評価観点	**知識・理解** ・社会人としてのマナーを理解している。 ・勤労や職業に対する理解や認識を深めようとしている。 ・自己の個性を理解している。 **関心・意欲・態度** ・インターンシップや勤労観・職業観、職業について関心を持とうとしている。 ・自己の個性について関心を持ち、進路の選択に意欲的に取り組む態度を身に付けている。			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	社会で求められている言動が、今の自分たちには足りないと身を持って感じることができ、インターンシップに向けて、日々の学校生活において一つひとつ改善していかなければならないことを理解することができた。また、自ら就きたい職業について真剣に考え、インターンシップ先を意欲的に調査し、自ら折衝してインターンシップの受入先を新規に開拓した生徒もいた。			

広島県立　総合技術高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例 17

⑦学校設定科目「インターンシップ」におけるインターンシップの実施

課題（ねらい）	インターンシップを通し、勤労観・職業観及び職業に関する知識・理解を深め、自己の将来の在り方生き方について考えた内容から、今後の進路について考えることができる			
テーマ	どのような目的・ねらいを持ってインターンシップにのぞみ、実習を通じて何を感じ、何を学び、この経験を今後にどのように活かしていくのか			
育成する力	情報の解釈・分析・評価	**問題発見**	**他者理解**	**対人関係におけるコントロール方略**
	論理的な表現力	**問題解決**	多様な他者との協働的問題解決	地球規模の視野と社会への参画意識
対象	学校全体	**学年全体**	クラス	その他
指導枠	教科	**総学**	課外	その他（行事等）
授業時間（コマ数）	４０時間（夏季休業中）８時間×５日			
指導の流れ	a　担当教員が企業を訪問し最終打ち合せをする b　該当生徒を担当教員が招集し、具体的な指示、確認を行う c　インターンシップ初日開始時：担当教員、該当生徒を引率（現地集合） d　インターンシップの実施（基本５日間） e　実習日誌の提出、感想文（礼状）の作成・提出			
学習素材	・実習日誌（企業担当者検印）　・自己紹介カード（該当生徒が企業に提出） ・事業所からの資料 ・事業所アンケートと生徒に対する評価表（企業に事後郵送依頼）			
指導のポイント	緊急時の連絡先の確認、生徒自身及び学校の社会的評価に繋がることを自覚させる。報・連・相を意識してコミュニケーションがとれるよう指導する。			
評価観点	**思考・判断・表現** ・働くことや社会人としての責任、マナーを深く考えるとともに、仕事の遂行に際してＴＰＯに応じた適切な判断ができる。 **技能** ・体験実習先での内容を遂行できる技能を有し、職場の方々とコミュニケーションをとることができる。			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	インターンシップ先では自ら課題を設定し、その課題解決のために、実践的に取り組んでいる様子がうかがえた。また、学校で学習した内容が実際の現場で活用できることの喜びを感じていた。さらには、社会人と学生の違いについて体験を通して気が付き、そのギャップを埋めるために学生時代に何をすべきかを考え直す良い機会となった。しかしながら、全生徒が意欲的に取り組めたわけではなく、インターンシップ前の動機づけの充実が今後の課題となった。			

広島県立　総合技術高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例 18

⑧学校設定科目「インターンシップ」における学習成果発表

課題（ねらい）	インターンシップを通し、勤労観・職業観及び職業に関する知識・理解を深め、自己の将来の在り方生き方について考えた内容から、今後の進路について考えることができる			
テーマ	どのような目的・ねらいを持ってインターンシップにのぞみ、実習を通じて何を感じ、何を学び、この経験を今後にどのように活かしていくのか			
育成する力	情報の解釈・分析・評価	**問題発見**	他者理解	対人関係におけるコントロール方略
	論理的な表現力	**問題解決**	多様な他者との協働的問題解決	地球規模の視野と社会への参画意識
対象	学校全体	**学年全体**	クラス	その他
指導枠	教科	**総学**	課外	その他（行事等）
授業時間（コマ数）	９時間（準備：４時間、発表会：５時間）			
指導の流れ	a　発表資料作成についての説明 b　発表にかかわる注意点（昨年度の発表における課題） c　プレゼンテーション企画書作成 d　パワーポイント作成 e　発表			
学習素材	プリント（ファイルに綴じる）			
指導のポイント	仮説検証型の発表とし、その結果から自らの今後の動向についてしっかり考えさせる。			
評価観点	**思考・判断・表現** ・インターンシップの意義やその効果について深く思考できる。 ・自己を理解し、インターンシップを活かした学校生活や進路選択ができる。 ・インターンシップで学んだことを発表できる。			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	インターンシップを通して、実社会に触れ、何気ない活動の中でも社会貢献や販売につながることなど学校では気が付かないことに気が付くことができ、それらを振り返ることにより、今後の学校生活や進路について、結びつけることができた。また、他の生徒の発表を聞くことにより、他の職場の状況や他の考えに触れることができ、互いに刺激しあうことができた。			

広島県立　総合技術高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例 19

⑨週末課題「研究ノート」（食デザイン科）

課題（ねらい）	「食」を学ぶための興味・関心力を高める			
テーマ	新聞記事等から興味・関心のある記事を見つけ出し、自分の考えをまとめ、記述することができる			
育成する力	**情報の解釈・分析・評価**	**問題発見**	他者理解	対人関係におけるコントロール方略
	論理的な表現力	問題解決	多様な他者との協働的問題解決	地球規模の視野と社会への参画意識
対象	学校全体	学年全体	**クラス**	その他
指導枠	教科	総学	**課外**	その他（行事等）
授業時間（コマ数）				
指導の流れ	・１年次当初「研究ノート」について説明 ・以後、週末・長期休暇の課題として実施			
学習素材	専用のノート（ファイル）			
指導のポイント	「食」に関わる記事を探し、それについて自分の考えを２００文字以上で記述する。			
評価観点	**思考・判断・表現** ・自分の考えを限られた文字数の中で表現することができる。 ・世間の「食」に関わる情報を理解することができる。			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	・新聞記事からどの記事を選ぶのかが生徒によって異なったり、同じ記事でも書く内容が異なるので、生徒が考えていることを知るきっかけとなったり、生徒理解の助けとなっている。 ・国語的な指導が不十分なため、文章表現の力などを育てるまでには至っていない。			

岡山県立　和気閑谷高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容：事例 20

課題（ねらい）	基礎学力＋問題解決学習、世界史Ｂ＋公民科目の融合を図る！			
テーマ	古代中国思想と皇帝政治			
育成する力	**情報の解釈・分析・評価**	問題発見	他者理解	対人関係におけるコントロール方略
	論理的な表現力	**問題解決**	多様な他者との協働的問題解決	地球規模の視野と社会への参画意識
対象	学校全体	学年全体	クラス	**その他**
指導枠	**教科**	総学	課外	その他（行事等）
授業時間（コマ数）	４コマ＋長期休業課題			
指導の流れ	６月　授業①：古代中国の思想 ６月　授業②：春秋戦国時代 ６月　授業③：秦の統一と始皇帝の統一政策 ６月　授業④：漢の文化 夏期　課題：「世界史への関心を高める」古代中国思想に関する学習			
学習素材	オリジナルプリント			
指導のポイント	・古代中国思想の特色を理解する。 ・中国古代王朝がどのような思想を採用したかを理解し、その理由を考える。 ・中国の皇帝政治の特色を概観する。			
評価観点	・文章を正しく読解できている。 ・論理的に自分の考えを表現できている。			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	・生徒は「意外に難しい」と感じていた。歴史の事実や国家の背景によって、また生徒個人の好みによって選択する思想は異なるので彼らなりにしっかり考えていたようだった。政治のあり方を考える機会にもなったと感じる生徒もいた。「基礎学力＋問題解決学習」「世界史Ｂ＋公民科目」のハイブリッド教材のイメージでつくってみた。 ・提出後のフィードバック不足が反省点である。再度世界史Ｂの知識に落とし込む時間を設けて、宋あたりで中国皇帝政治を概観・理解させた方が良かった。			

岡山県立　和気閑谷高等学校

評価テストで測った力と相関があると思われる指導内容:事例 21

課題（ねらい）	新入生宿泊研修を通じて学びのイメージを定着させる			
テーマ	宿泊研修「源流の地閑谷で世界と未来を考える」			
育成する力	**情報の解釈・分析・評価**	**問題発見**	**他者理解**	対人関係におけるコントロール方略
	論理的な表現力	**問題解決**	多様な他者との協働的問題解決	**地球規模の視野と社会への参画意識**
対象	学校全体	**学年全体**	クラス	その他
指導枠	教科	総学	課外	**その他（行事等）**
授業時間（コマ数）	全１３種			
指導の流れ	①講堂学習　論語朗誦を通じ、本校のルーツを知り、自覚を促す ②校長講話『自分で自分を指導する力を付ける』 ③『世界がもし１５８人の村だったら』 ④国公『原稿用紙の使い方』 ⑤『本校の源流を知る』 ⑥進路講演会『進路実現をめざして』 ⑦公数『地図・統計・割合』 ⑧公英『時事英単語』 ⑨講演と演習『自分を知ろう』 ⑩国公『時事ワード・漢字力』 ⑪『二項対立を知る』ディスカッション・ディベートの基礎 ⑫進路講演会『Ｈ２５就職状況』 ⑬研修のふりかえり			
学習素材	オリジナルプリントなど			
指導のポイント	・③を基幹とし、教科横断型の基礎学力を身に付ける。 ・ＩＣＴを積極的に活用する。 ・ＧＷを積極的に取り入れるなど、生徒の主体的活動場面を確保する。			
評価観点	特になし			
指導を通しての気づき（よかったところや改善点）	◎従来はひたすら国数英をドリルドリル・・・自学自習の「行」のような学習合宿のため、寝る生徒も多かった。が、内容を大転換して手応えはあった。 ◎③の学習後は、例年に比較して、食事の食べ残しが激減。自己の問題として世界のことを少しは考えたのかも知れない。 △「イベントとしては良かった」に留まった。その後の学習への影響力はやはり少しずつ・・・。また、次学年へ、この取り組みを継承できなかった。			

なお、前ページまでの 21 事例について、平成 27 年度２月の評価手法検討会議にて、下記のようなディスカッションが行われた。

○系統表に表される各能力の到達目標やつまづきポイント、指導のポイントと、各校から提出された指導事例にある育成される能力との対応を見ると、どの取り組みも１対１対応ではなく、複数の能力に対応している。やはり、指導事例は単純に一つの能力のみの育成を目指すものではないから、この表内に１対１対応で当てはめるのは難しい。 →指導事例は学校がそのまま使うものでなく、あくまで参考にするものなので、対応する複数の能力について指導事例があてはまるような整理でよいのではないか。 ○（指導のポイントについて）教科指導の事例が、汎用的な能力とどのように結びつくのかという解説があると関連性がわかってよいのではないか。

汎用的能力の育成について何か特別な対応や取り組みが必要であるとなってしまうと、普及のスピードが遅くなる。各高等学校における通常授業、すなわち教科指導の中で汎用的能力をいかに育成するか、そのためにはどのような指導事例があるか、といった点を踏まえた事例の組み立て・提示が必要になると思われる。

その意味では、今後の課題として以下２点が挙げられる。

・実社会・実生活に役立つ多様な力を、行動レベルでの実践に落とし込み、それを通じて育成していくこと

・その実践を、教科の学習へとつなげていくこと

繰り返しになるが、今後の指導実践事例については、教科学習とのつながりを強く意識したものであるかどうかを見極めることがポイントであろう。

<MEMO>